

8.4 生物・生態系

8.4.1 調査事項

調査事項は、表 8.4-1 に示すとおりである。

表8.4-1 調査事項(東京2020大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度 ・陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度 ・生育・生息環境の変化の内容及びその程度 ・生態系の変化の内容及びその程度
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・既存緑地の改変の程度 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地北側のサクラ（ソメイヨシノ）は保存する計画としている。 ・計画地南側の一般国道20号（甲州街道）沿いのイチヨウの既存樹木を場外で仮養生を行ったうえで緑化樹として活用する。 ・地上部のオープンスペースに高木及び地被類を植栽する。 ・コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行う計画としている。 ・十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する。

8.4.2 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

8.4.3 調査手法

調査手法は、表 8.4-2 に示すとおりである。

表8.4-2 調査手法(東京2020大会の開催後)

調査事項	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度 ・陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度 ・生育・生息環境の変化の内容及びその程度 ・生態系の変化の内容及びその程度 	
調査時点	東京2020大会の開催後(2021年度)とした。	
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とした。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とした。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とした。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とした。
	予測条件の状況	計画地内とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とした。
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況を整理する方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。

8.4.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項及び予測条件の条件

ア. 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっていた。植物群落としては、計画地北側のソメイヨシノの植栽樹林群のみであった。事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存したことから、事業の実施による改変は生じなかった。また、現地調査の結果、計画地内に注目される種は生育していないため、事業による影響はなかった。なお、地上部のオープンスペースに高木及び地被類を植栽したことにより、植物相は多様化した。

イ. 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっていた。動物の生息環境としては、計画地北側のソメイヨシノの植栽樹林群のみであった。事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存したことから、事業の実施による改変は生じなかった。また、現地調査の結果、計画地内に注目される種は確認されていないため、事業による影響はなかった。なお、地上部のオープンスペースに高木及び地被類を植栽したことにより、動物相の多様化に寄与するものと考えられる。

ウ. 生育・生息環境の変化の内容及びその程度

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっていた。動植物の生育・生息環境としては、計画地北側のソメイヨシノの植栽樹林群のみであった。事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存したことから、事業の実施による改変は生じなかったため、動植物の生育・生息環境の変化の程度は小さかった。なお、地上部のオープンスペースに高木及び地被類を植栽したことにより、生育・生息環境の創出に寄与するものと考えられる。

エ. 生態系の変化の内容及びその程度

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっていた。生態系を構成する陸上植物、陸上動物が相互に関わる生育・生息環境としては、計画地北側のソメイヨシノの植栽樹林群のみであった。事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存したことから、事業の実施による改変は生じなかったため、生態系の変化の程度は小さかった。なお、地上部のオープンスペースに高木及び地被類を植栽したことにより、生態系の多様化に寄与するものと考えられる。

3) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.4-3(1)～(3)に示すとおりである。なお、生物・生態系に関する問合せはなかった。

表8.4-3(1) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

<p>ミティゲーション 実施状況</p>	<p>・計画地北側のサクラ(ソメイヨシノ)は保存する計画としている。</p>
<p>計画地北側のサクラ並木を保存することにより、計画地東側街路樹(スタジアム通り)の桜並木との連続性を確保した。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <p>計画地北側のサクラの保存</p> <p>計画地東側(スタジアム通り)のサクラ並木</p> </div>	
<p>ミティゲーション 実施状況</p>	<p>・計画地南側の一般国道20号(甲州街道)沿いのイチヨウの既存樹木を場外で仮養生を行ったうえで緑化樹として活用する。</p>
<p>施設建設に際して、計画地南側の一般国道20号(甲州街道)沿いのイチヨウの生育に支障を及ぼさないように場外で仮養生を行った後、建設後に復植し緑化樹として活用し、周辺景観との調和を図った。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <p>一般国道20号沿いのイチヨウ</p> <p>一般国道20号沿いのイチヨウ</p> </div>	

表8.4-3(2) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

<p>ミティゲーション</p>	<p>・地上部のオープンスペースに高木及び地被類を植栽する。</p>
<p>実施状況</p>	<p>地上部のオープンスペースにはサクラの高木及びヘデラ等の地被類を植栽した。また、メインアリーナの東側には緩衝帯としてヘデラを用いた緑化を行った。</p>
	
<p>地上部のオープンスペースの緑化(サクラ)</p>	<p>メインアリーナの東側の緩衝帯の緑化(ヘデラ)</p>
<p>ミティゲーション</p>	<p>・コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行う計画としている。</p>
<p>実施状況</p>	<p>コンコース上の人工地盤には植栽基盤を整備し、シラカシやゲッケイジュを植栽した。また、サブアリーナの屋上にノシバ、ヘデラ・カナリエンシス、ヘデラヘリックス、フィリフェラオレア、アベリアを用いた緑化を行った。メインアリーナの壁面緑化を行った。この人工地盤植栽や屋上緑化については、維持管理計画を定め、灌水、適切な剪定、刈込み、除草等を行い、生物の生育・生息基盤が維持されるよう管理を実施している。</p>
	
<p>コンコース上の植栽(シラカシ)</p>	<p>コンコース上の植栽(シラカシ)</p>
	
<p>コンコース上の植栽 (ゲッケイジュ)</p>	<p>サブアリーナの屋上緑化 (ヘデラ、アベリア、フィリフェラオレア)</p>

表8.4-3(3) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

実施状況(つづき)



サブアリーナの屋上緑化
(ノシバ、ヘデラ)



メインアリーナの壁面緑化(ツワブキ、ハツユキカズラ、オタフクナンテン、アオキ、アベリア等)

ミティゲーション

・十分な植栽基盤(土壌)の必要な厚みを確保する。

実施状況

植栽基盤として約1mの厚みを確保した。



植栽基盤の厚み

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっていた。植物群落としては、計画地北側のソメイヨシノの植栽樹林群のみであったが、事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存したことから、事業の実施による改変は生じなかった。また、現地調査の結果、計画地内に注目される種は生育していないため、事業による影響はなかった。なお、地上部のオープンスペースに高木及び地被類を植栽した。

以上のことから、予測結果と同様に、既存植物に改変はなく、さらに、新たな緑化により植物相は多様化したものとする。

イ. 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっていた。動物の生息環境としては、計画地北側のソメイヨシノの植栽樹林群のみであったが、事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存したことから、事業の実施による改変は生じなかった。また、現地調査の結果、計画地内に注目される種は確認されていないため、事業による影響はなかった。なお、地上部のオープンスペースに高木及び地被類を植栽した。

以上のことから、予測結果と同様に、動物の生息環境に改変はなく、さらに、新たな緑化により生息環境である緑地の植物相が多様化したことにより、動物相及び動物群集も多様化すると考えられる。

ウ. 生育・生息環境の変化の内容及びその程度

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっていた。動植物の生育・生息環境としては、計画地北側のソメイヨシノの植栽樹林群のみであったが、事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存したことから、事業の実施による改変は生じなかったため、動植物の生育・生息環境の変化の程度は小さかった。なお、地上部のオープンスペースに高木及び地被類を植栽した。

以上のことから、予測結果と同様に、動植物の生育・生息環境の変化の程度は小さいものとする。

エ. 生態系の変化の内容及びその程度

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっていた。生態系を構成する陸上植物、陸上動物が相互に関わる生育・生息環境としては、計画地北側のソメイヨシノの植栽樹林群のみであったが、事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存したことから、事業の実施による改変は生じなかったため、生態系の変化の程度は小さかった。なお、地上部のオープンスペースに高木及び地被類を植栽した。

以上のことから、予測結果と同様に、生態系の変化の程度は小さいものとする。